

神社の杜(三十六)

御岳ピジターセンター 片柳 茂生

春はよい時期、一度はおいで

夏のレンゲシヨウマで一躍名を馳せた富士峰園地。その昔は、富士峰の千本桜と言うくらい桜が多かった所ですが、今は残念ながら千本桜と言うには気が引ける程桜が少なくなつてしまいました。でも富士峰の春は桜だけではありません。他にもたくさん見どころ満載の樹木があるんですよ。今回は富士峰の春を彩る木々についてご紹介しましょう。

富士峰で、まず最初に咲き出すのがマンサクです。淡い黄色の花を枝にたくさんつけ、その情景から付いた名が「満作」、また、春に先だって「まず咲く」からその名が付いたとも言われています。どのマンサクも同じように見えるのですが、実は大塚山に向かう途中の一本だけ、他のマンサクに比べて色が濃い木があるのです。是非見つけてみて下さい。見頃は三月上旬から中旬にかけてなのですがこの時期はまだややもすると雪が降ります。黄色の花に淡い雪が積

もった姿もまたこの時期ならではのものでしょう。

マンサクを追いかけられるように咲くのが、近年植栽されたロウバイです。こちらは黄色い花と香りをお楽しみ下さい。

マンサクやロウバイが咲き終わる頃、アブラチャンやダンコウバイが咲き出し、目立ちませんがヤマハシバミやツノハシバミも咲き出します。アブラチャン?変な名前です、クスノキの仲間が良い香りがします。昔は、この木の実から瀝青と言う油を採っていたようです。チャンとは、中国語でいうともしかして油のこと?してみるとアブラチャンを漢字で表すと「油油」?まさかですね。

ツノハシバミはまず雄花から咲き出します。冬の間固く短かった雄花は、春を感じると長く伸

び出し、やがて花粉を飛ばし始めます。その頃雌花が開花するので、雌花はとても小さいので、遠くからその姿を見つけることは難しいでしょう。でもよく見ると枝に点々と赤いものが付いています。更に近づいてみましょう。それは赤い色をしたタコの足のように見えます。実はこれが雌花です。小さくて見落としてしまいそうですが、よく見るとなかなかどうして可憐な花です。

桜のような艶やかさはありませんが、富士峰にはたくさんのお花見を楽しんではいかがでしょうか。



表紙写真 鈴木 新吾

「ジヨウビタキ(メス)」

スズメ目・ツグミ科(ヒタキ科)に分類される小鳥。地鳴きは「ピツ」や「キツ」と甲高い声と、打撃音のような「カツ」という声で特徴的。打撃音の「カツ」が、火を焚く時の火打ち石を打ち合わせる音に似ていることから、「火焚き(ヒタキ)」の名が付いたとされる。

あとがき

幸福感を持つ人の回りには、同じ意識を持つ人が多くいる事が調査され、それは友人の知人まで伝わるそうです。また、逆もしかり。メディアを賑わせる、暗いニュース、感動が少なくなった番組構成、皆様の視点もそうなっています。身近にある明るい出来事、楽しい事件、感動を生む話題を探して下さい。人と自然を愛し、普段の生活の中で楽しさを見いだす事、神道の理念と日本の明日は、皆様の中に流れています。村野奉賛会長 ピジターセンター 片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十三年三月八日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集 武蔵御嶽神社
TEL 0486(七六) 八五〇〇
FAX 0486(七六) 九七〇一
http://www.musashitakeinjap/
印刷 (株)成和印刷